

二〇一三年四月五日

花鳥賊の墨の狼藉耀の土間
万歩計記録更新花疲れ
ビル風に落花逆巻く交差点
出勤の廻り道して花堤
春昼や振子時計の刻む音

二〇一三年四月四日

おぼろ夜の話尽きざる老姉妹
観潮や渦に吞まるる木の葉見よ
間延びせる出船の汽笛春の昼
爛漫の花のダム湖の水鏡
老い母の苞にと畦の土筆摘む
大いなる弧を描き曲がる花堤
迷子告ぐ桜吹雪の動物園

二〇一三年四月三日

湖風にタクト振りある花ポピー
峡おぼろバスの尾灯の左右に揺れ
新しき青竹組まれ上り築
空谷の桜隠れに一山家

二〇一三年四月二日

咲き揃ふムスカリの葉を散髪す
検診終え帰るさの道花吹雪
二度三度露天湯に春惜しみけり
遊山舟眺めの茶屋や花堤
谷戸の駅沈む万朶の花の中
楓芽吹く樹下に石臼ごころぶ

よし女

よし子

うつき

さつき

ひかり

きづな

はく子

せいじ

雅流

有香

ひかり

なつき

よし女

雅流

ともえ

うつき

あさこ

よし女

はく子

ひかり

うつき

わかば

陽を吸ひて炎とならむ牡丹の芽

浄瑠璃のさらふ声洩るおぼろかな

二〇一三年四月一日

廃校と決まりし花の母校訪ふ
冗談にしらけたる座や四月馬鹿
花万朶華燭に点るレストラン
帰り鴨陣組むほどに揃はざる

二〇一三年三月三十一日

花筵守る社員証首に提げ
途中下車して存問す花の須磨
囀りに元氣をもらふ朝かな
検査また検査の日々に春愁ふ
生かされて白寿を祝ふイースター
学舎いま祈りの時間白椿

二〇一三年三月三〇日

花堤行き交ふ人のみな笑顔
女生徒の開ける茶室の春障子
天守閣見下ろす四囲の花の雲

たえこ
雅流

つくし

宏虎

はく子

たえこ

なつき

わかば

よし子

あさこ

わかば

菜々

菜々

よし子

百合

毎日句会みのる選・二〇一三年四月七日